



志段見西小とのホタル飛翔観察



保護者や地域の人と川の清掃



ホタルコンサート「とべとべホタル」



第1回東海三県「ホタルサミット」



保護者や地域の人と幼虫を放流



左から酒向浩栄、山田千穂、伊藤恵実、天池<sup>そうすけ</sup>壮佑

# 私たちの三和町発見!

文・写真 / (三和小学校 5・6年の皆さん)

「さあ、川掃除をしましょう」

三和小学校では、ホタルを守るために、年に2回の川掃除を行い、きれいな川にホタルの幼虫を放流します。ホタル保護活動は、すでに27年以上続いています。

6月のホタルコンサートに向け今年も、「オペレッタ」とべとべホタル」に取り組み、お客さんに環境保護とホタルの大切さを訴えました。6月中旬には、名古屋市守山区の志段見西小学校のホタル部と交流会を開きました。三和にたくさんいるカワニナも志段見西小では簡単に手に入らないことを知り、びっくりしました。

7月には、三重県の立田小とともに志段見西小を訪問し、活動の様子を見学しました。その後、名古屋のテレビ局に行き3校でホタルや環境のことを話し合いました。どの学校もホタルを増やすために努力していることが分かりました。

私たちは、三和のホタル保護活動の歴史を調べました。始まりは三和の集中豪雨でした。死者7人、けが人9人、田畑や家の被害は5億円という大災害でした。

洪水後、川が変わりホタルも少なくなりました。そこで「三和の源氏ホタルを守ろう」と市や地域の人々の努力で保護活動が始まりました。約10年くらいかかり、元のようにホタルが飛ぶようになりました。

私のおじいさん(注1)は、三河湾の佐久島へ仕事で行ったそうです。そのとき、島の子どもたちが、ホタルを見たことがないと知りました。おじいさんは、つかまえたホタルを冷蔵庫で休眠させ島まで運びました。佐久島の小学校でホタルを放すと、光ながら飛ぶホタルの姿を見て、子どもたちがとても喜んでくれました。

取材を通して、ホタル保護活動や交流が、地域の人々の努力により、長い歴史を持つことが分かりました。私たちもホタル保護活動やホタルコンサートなどを地域の誇りとして受け継いでいきたいと思っています。

(注1) 山田千穂さん祖父)